

県下医療機関・臨床研修病院紹介

卒後臨床研修施設としての 熊本地域医療センターの近況

熊本地域医療センター院長

廣田 昌彦

熊本地域医療センターは、熊本市医師会立の病院で、昭和五十六年に開設されました。平成十二年九月には、新館が増築され、病床数二二七床の新病院として再スタートしました。診療科は、内科（消化器・呼吸器・循環器・代謝内分泌）、小児科、外科、小児外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、緩和ケア科の計十一で、常勤医師は三四名です。年間約二千件の救急車搬入を受けられています。

医師会立の病院として、熊本地域医療センターに『期待されていること』、当院が『果たすべきこと』、についてまとめますと、以下の五項目が挙げられます。

1) 熊本市医師会会員施設との密接な機能連携

● 診療要望への即応体制（必要時いつでも診療可能、必要時いつでも入院可能）

● 高度機能医療機器・診療施設

の共同利用（手術室、画像診断装置、臨床検査機器など）、共同診療

● 病診連携・病病連携の中核病院としての機能

● 生涯研修（D.I.、コメディカル）

2) 高度な技術が必要とする疾病の治療（手術、内視鏡、カテーテル治療、etc.）

3) 休日・夜間の一次救急診療（熊本市より熊本市医師会への委託事業）、および二十四時間対応の二次救急診療（救急車対応）

4) 熊本大学医学部附属病院と連携した学生・研修医教育

5) 救急救命士の教育、などの社会貢献

卒後臨床研修は、4)に掲げましたように、熊本地域医療センターの果たすべき重要な役割りのひとつです。当院は、「基幹型臨床研修病院」ではありませんが、熊本大学医学部附属病院の「協力型臨床研修病院」として、内科、外科、小児科の臨床研修を行っていただいております。

「がん診療（診断から看取りまで）」「消化器疾患診療」「小児救急診療」、これらが当院の三大セールスポイントと言われてまいりました。中でも、最近では、膵臓がんの診療に力をいれております。膵臓がんの手術数も、九州内の大学病院を含めた全病院の中で、平成二十三年には第三位です。その後も手術数は増えてますので、第一位も夢ではない状況です。九州内はもとより、大阪や外国からも患者さんが来られています。

当院は、診断から手術、化学療法、緩和ケアまで一貫した診療を行います。また、医師会立の病院ですので、日常診療の基本となる症例がたくさん経験でき、「基本的な診療能力」を身に付けることができます。二二七床という規模は、アットホームで、将来につながる、まごころのこもった指導が可能です。熊本地域医療センターでの卒後臨床研修をどうぞご検討ください。

とは申しまでも、膵臓がんは、残念ながら、手術を行ってもすべての方を治癒に導くことはできません。再発が起った場合、再発が制御できない場合の治療も非常に重要です。そのような（これは膵臓がんに限ったことではありませんが）場合、多くの病院では転院を余儀なくされ、患者さんはまた一から医師あるいは診療チームとの人間関係を構築しないといけないのが現状です。



熊本地域医療センター